

新潟中越地震に学ぼう

現地職員ら体験報告

新潟県中越地震の被災地へ
医師らを派遣し、支援活動を
続ける国際医療ボランティア
AMDA（岡山市櫛津）と県
老人保健施設協会は二十一
日、岡山市内で「新潟県中越
地震に学ぶ 老人保健施設の
災害対策フォーラム」を開い
た。両団体が派遣したボラン
ティアを受け入れた現地の福
祉施設職員らが、震災後の生
活ぶりや施設の対応などを報
告、今後への教訓などを確認
し合った。

老人保健施設の災害対策

岡山でAMDAなどフォーラム

県内の介護福祉士ら約七十人が参加。基調講演では、新潟県小千谷市の介護老人保健施設に勤める理学療法士野上佳信さん（三巴）が、お年寄りら約百人が食堂に集めたベッドで過ごした避難生活の体験談を紹介した。

野上さんは「入居者は一週間も着替える余裕すらなく、ストレスからけんかが絶えず苦情も相次いだ。ゆとりを忘れまいとレクリエーションを再開したなどと説明。疲労が限界に近づいた十一月三日、AMDAなどからボランティアらが到着し「涙が出るほどありがたく、人の温かさを肌で感じた」と話した。

現地で支援活動に当たった介護福祉士ら六人によるパネルディスカッションもあり「介護を必要とする高齢者は、体力や判断力、情報がない。一番の災害弱者」「不安な時こそ笑顔や声掛けが必要」などの意見が出た。

県内の介護福祉士ら約七十人が参加。基調講演に災害弱者支援チーム創

設や、同協会とAMDAが足並みをそろえて活動する災害弱者支援協定の締結などを提言した。両団体は十一月以降、七回にわたって介護福祉士や医師、看護師ら延べ四十六人を派遣し、高齢の被災者らの介護や健康管理、生活の介助などを

新潟中越地震に学ぶ 老人保健施設の災害対策フォーラム



新潟県中越地震での経験を基に、今後の被災者支援の在り方などを話し合ったフォーラム

県老人保健施設協会は、新潟での支援活動の経験を今後に生かすた